

Department of Education alumni association

あすなろ

2017 No.39



発行
弘前大学教育学部同窓会
相馬正栄

所在地 青森県弘前市文京町1
TEL 0172(39)3314 (学部)



教育学部と教員養成のこれから

教育学部長 戸塚 学

同窓会の皆様、日頃から教育学部の教育研究にご理解とご協力を頂き、誠にありがとうございます。皆様のご支援のもと、平成29年4月に教職大学院である教育学研究科・教職実践専攻を開設し、教員養成・育成の新たな一歩を踏み出しました。

さて、私がこの「あすなろ」の原稿を書かせて頂くのも4回目になります。いつもは教育学部の現況報告としておりましたが、今回は、少し長いスパンで教育学部を概観したいと思います。

本学は、大学の教育学部の形で発足したのは昭和24年5月になるのは、同窓会の皆様もご存知のことだと思います。当時は弘前本校と野辺地分校の2校体制でした。

その後、昭和35年3月に野辺地分校が閉校となり本校に統合されました。こうして昭和35年4月、小学校教育養成課程学生定員一〇五名、中学校教員養成課程一〇名の現体制に近い形のスタートを切りました。学生定員の変遷を見ま

すと、社会環境や教育環境の変化により昭和53年度にピークの三七〇名となりました。その後、平成14年度にピーク時の三分の二まで減少し、平成28年度には約半分(一七〇名)になりました。このような数値で教育学部の変遷を表現するのは甚だしくからん話ですが、学生定員は学部の規模を示す最も良い指標であり、今回あらためて取り上げてみました。

平成29年8月29日、文部科学省の有識者会議が「国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議報告書」をまとめました。内容の詳細については文科省のHP等をご参照して頂くこととして、その最後の章には「各地域の教員需要の推移等に基づく入学定員の見直し」、「大学間で教員養成機能を統合」等の検討が内容に盛り込まれています。

今後、本学部がこの改革の波に巻き込まれるのを避けることはできません。弘前大学教育学部は、青森県唯一の国立総合大学の教員

養成系学部として、本県をはじめ、北東北、北海道、そして全国に優秀な教員を輩出してきたものと自負しております。現役を退いた先輩方や現職として教育活動に携わっている先生方の活躍ぶり、本学部が地域の教育に重要な役割を果たしている何よりの証であると信じています。大学の方針としても教員養成を今後もしっかりと続ける方向です。どうか同窓



学力を考える

同窓会長 相馬 正栄
(昭和40年卒)

38年間勤めた教師としての仕事を退職してから15年経過しました。現職の時には、そんなにも考えることもなかったが、近頃「教育問題」がマスコミなどでとり上げられるようになり、自分も「教育」とは何かといろいろと考え、悩むこととなったのです。

さて、人はいろいろな社会的問題を、「教育」のせいにする傾向があり、「教育」を良くすれば社会も良くなると思える人がいるように。例えば若い人のモラルが低下したのは「教育」のせいだ、凶悪犯罪が多くなったのも「教育」のせいだ、また経済も良くならないのは「教育」のせいだ、というふう

に。そのような中で、一九九〇年代後半に「学力低下」の問題が起これ、その「学力」を「知識量」とするの

会の皆様におかれましても、強力な応援団として教育学部を支え続けて頂けるよう、ここにお願ひします。

末筆ですが、本年度は大坪正一先生(教育学)、後藤雄二先生(社会科学教育)、東 徹先生(理科教育)、浅野清先生(音楽教育)、岩井康頼先生(美術教育)、本間正行先生(保健体育)が定年退職予定です。

力」と考えるのか。また「学習意欲の問題」と捉えるのか、全く違った意見を述べる学者達がいる、学校としてはどちらの意見がいいのか、大いに考え悩んだものでした。

さて、二〇〇二年「ゆとり教育」が完全実施され、次々と「学校週五日制」や「教育内容の三割削減」が打ち出されました。

ところが、その「ゆとり教育」が、子どもたちの「学力低下」の原因ではないかと批判されたのです。「学力」を「知識の量」だと考える人からみれば、当然「学力低下」につながると心配され、「知識量」をもっと増やすべきだとする一方、「学力」を「問題解決能力」と考える人は、知識の量はそれほど大きな問題ではなく、細かな知識をためこむより必要なことは「自ら考える力」だ

必要



リンゴアート制作風景 (弘前城本丸・2017.10)

ということなのです。私は「学力」をどのように捉えたいのか考える機会となりました。

それでは子ども達が将来社会に出て働く際、身につけなければならない「学力」とはどんなものでしょうか。それは、将来AI(人工知能)やロボットなどの産業がますます進化するだろうし、今の小学生が社会に出る頃には、六、七割はまだない職業に就くだろうといわれている社会では、その場その場において必要な知識・情報を完全に自分ものにし自ら解決して行くための、自ら「絶えず学び続ける力・意欲」が求められると思います。私は、このような力・意欲を「学力」と考えたいが、さて、このような「学力」を学校教育するにはどのような方法で教育するにしようか。これが問題なのです。



教職大学院での学びと研究
弘前大学大学院教育学研究科教職実践専攻(教職大学院)
専攻長 中野博之

今年度四月に弘前大学教職大学院が開校いたしました。この教職大学院は設置準備の段階から青森県教委及び弘前市教委と協議を重ね、青森県の学校教育力の向上に貢献することを目的として設置されました。この度、同窓会報の貴重な紙面を教職大学院に頂けることとなりましたので、本学教職大学院の概要をお知らせしたいと思います。

(1) 理念と二つのコース

本学教職大学院は、青森県が直面している教育課題に対して理論と実践の往還・融合を通じた省察をもとに、その解決に向けた教育実践を創造し教育現場をリードできる教員を養成するという理念を掲げております。そして養成すべき力として「自律的発展力」「協働力」「課題探究力」「省察力」の四つを挙げ、青森県教委から派遣される公立学校の現職教員を対象とした「ミドルリーダー養成コース(定員八名)」と、主に学部新卒学生を対象とした「教育実践開発コース(定員八名)」という二つのコースを設定しました。

(2) 従来の大学院と

従来の大学院との一番の違いは、修士論文が院生に課されていないことでしょう。その一方で、院生には二年間を通して実習が課

されています。この実習の履修も違いの一つとして挙げられます。そして本学教職大学院では、現職教員の院生には自身の大学院での学びや研究成果をどのように他者に広めていくのかを、学部新卒の院生には自身の学びや研究成果をどのように教育実践に繋げていくのかを、それぞれ常に考えるように指導が行われています。

(3) 指導体制

教職大学院では入学定員十六名に対して、十六名の専任教員が配置され、手厚い指導が行われています。十六名の専任教員の内訳は九名が研究者教員で、七名が実務家教員です。この七名の実務家教員は、青森県での豊富な教職経験(管理職経験及び教育行政での経験を含む)を持った教員です。そして実務家教員七名のうち二名は青森県からの交流人事として着任してまいります。このような体制をとることで青森県教委及び弘前市教委との連携のもとで青森県の教育現場が抱える課題等をダイレクトに院生に伝えることができます。

(4) 院生の学びと研究

ミドルリーダー養成コースの院生は、一年次は勤務校を離れ大学で学びます。二年次は勤務校に戻り勤務をしながら、勤務校での実習と定期的な大学への通学を通して研究を深めていきます。一方、



教育実践開発コースの院生は、二年間大学で学びます。

一年次の前期は必修の十二科目の授業が設定されており、両コースの院生が一緒になって学びます。授業は研究者教員と実務家教員でのT、Tによる演習形式で行われ、したがって、院生同士による議論の場が多くなります。これは、勤務校種、教職経験が全く異なる院生仲間や大学教員の意見を聴きながら院生自身の意見を主張しなければならぬことを意味します。この様にすることで、現職教員の院生は、学部新卒院生の素朴な疑問を知ると共にそのことによつて各自の教職経験を見直す機会を得ることが出来ます。一方、学部新卒の院生は現職教員の考えを聴くことによつて、学校の現状や課題について机上のこととしてではなく、現場の実体験に基づく視点を得るとともに、学校文化そのものについての理解を深め

することもできます。

一年次の後期以降は各院生の研究テーマと指導教員が決定し、ゼミでの研究指導が始まると共に、「発展科目」の中から院生各自が自分の研究テーマ等に合わせて四科目以上を選択し学びと研究を発展させていきます。

こうした授業と共に実習も年間を通して履修します。ミドルリーダー養成コースの院生に対しては、他校の校内研修や学教センターでの研修会に大学院の教員と共に参加したり、学部新卒院生に対して指導助言をしたりする実習が設定されています。また、教育実践開発コースの院生には一〜二週間の集中的な実習に加え、毎週一日程恒常的に弘前市内の学校で行われる実習が設定されています。

(5) 院生の生活

院生たちは授業の無い時は院生室で過ごします。院生室ではデス

クトップ型のパソコンが設置された机が院生全員に一台ずつ与えられ、院生はそこで研究等を進められるようになっていきます。この院生室は、両コースの学生が共に過ごし、常時、院生同士での情報交換ができるようになっています。授業や実習を通しての学びはもちろんです。こうした日常的な院生同士の会話も院生にとつては貴重な学びの場となっています。

(6) 最後に

弘前大学教職大学院は開設されたばかりです。したがって、青森県の学校教育力向上のために教職大学院をさらによりよいものにするためには一層の努力をしなければなりません。同窓会の皆様におかれましては、今後も教職大学院に対してご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

■既卒者■のための
教員採用試験対策講座
のご案内
既卒者を対象として、
主に2次試験対策を実施します。
積極的にご参加ください!
お申し込み、お待ちしております!
日程:平成30年7月30日(月)~8月3日(金)
(既卒者のための教員採用試験対策週間です)
①10:20~11:50 ②13:00~14:10
③14:20~15:50 ④16:00~17:30
対象者:弘前大学卒業生・修了生
内容:主に2次試験対策
①小論文の活用 ②自己PR ③個人面接・集団面接
④集団討論 ⑤模擬授業 ⑥場面指導
場所:弘前大学教育学部2階 教職実習室
担当:教職キャリア支援コーディネーター
山科 寛先生(ky-sien1@hirosaki-u.ac.jp)
廣藤 厚先生(ky-sien2@hirosaki-u.ac.jp)
角野 君代先生(ky-sien3@hirosaki-u.ac.jp)
山田 真寿美先生(ky-sien5@hirosaki-u.ac.jp)
申込:弘前大学教職支援室 0172-39-3423
または、上記の各先生方のメールアドレスまで
・小論文添削希望者は、事前にメール(Word形式)で送信ください。
・身近な講師にもお伝えください。
・様々なご要望に適宜対応いたします。



教師として教壇に立ち始めて、早いもので九か月が経ちました。初めての八戸市、初めての学校、初めての担任、そして初めての教え子たち。たくさんの初めてに囲まれて、とても新鮮な気持ちで毎日を過ごしています。

私は、山形県の酒田市という土地で生まれ育ちました。周りには田んぼが広がり、高い建物は一つもありません。閉校した私の母校は、全校児童が五十人ほどで一年生から六年生まで、全員の名前を言うことができたことを覚えています。そのような私ですから、全校児童が六百人を超える学校に決まった時は、子どもたちがどのよ



**見つめること、
実行すること、
変わること**

八戸市立柏崎小学校 教諭 佐藤 鴻大
(平成29年卒)

うな学校生活を送っているのか、先生たちはどのように子どもたちと接しているのか、全くイメージができませんでした。楽しみな気持ちもありましたが、緊張と戸惑いを隠せずに、固くぎこちない表情で私の教師生活がスタートしました。そんな中、五年生である三十五人の子どもたちは私のことを温かく迎え入れてくれました。四月のキラキラした子どもたちの目は忘れられません。

子どもたちは私を受け入れてくれましたが、私の教員生活はなかなかうまくいきませんでした。授業はしどろもどろで自信がなく、大切だと言われている「黄金の三日間」をすつ飛ばした土台のない学級経営は途中から立ち行かなくなりました。最初が肝心であること、自分の思いが入っていない言葉は全く子どもへの心には響かないこと、教師が堂々としていないと子どもも不安になってしまうこと、そんな教師の言動を子どもたちはよく見ていること、たくさんのことを子どもたちから学びました。周りの先生方も私に快くアドバイスをくれたり、助けてくれたり、手をさしのべてくれます。自分には恵まれていながら心から思いますが、大変なこともありましたが何とか二学期を終えることができました。



私には今、たくさんの課題があります。その中でも「子どもを見つめ、考えること」と「すぐに実行すること」ができるようにならなければならないと感じています。教え子たちには成長してほしいし、弱いところは変わってほしいと強く思います。そのためにはまず、自分が変わった姿を子どもたちに見せたいと思います。手ごたえを感じる時はいつも、本気で三十五人のことを考えて準備したときでした。この子どもたちの笑顔で教室がいっぱいになるよう、三十五人を我が子や弟、妹と思つて、向き合いたいと思います。抱負のようになってしまいました。反省と決意を胸にこれからも子どもたちと一緒に一歩一歩成長していきたいと思っています。

平成二十九年
弘前大学教育学部・同窓会懇談会

平成二十九年度の教育学部との懇談会は、十月二十日弘前大学五十周年記念会館二階会議室にて開催されました。学部からは戸塚学部長以下十三名、同窓会からは相馬会長以下十九名(顧問、副会長、監事、各支部代表(むつ下北上十三を除く)、事務局)の参加がありました。

学部からは教育学部の現況として、一)「教育学部の教育研究・地域連携」について。卒業生の進路については学部全体の就職率は98・9%の高さにあり、大学院進学者は学生の割である。小学校コース運営室を設置し27名の教員を配置した。小学校英語への対応策を展開している。中南教育事務所管内六市町村教育委員会との間に連携協定を結び協議会を発足した。青森県教委と連携し教育学部研究科教職実践専攻として教職大学院を設置した。附属小学校にインクルーシブ教育の拠点となる教育支援室「ピアルーム」を設置した。等、戸塚学部長より説明があった。二)「教職大学院(教育学部研究科教職実践専攻)」について。瀧本壽史先生より研究者教員八名と実務家教員八名の紹介と在籍している院生の紹介と現在の状況説明がありました。暗中模索の状態ではあるがこれからのがんばりですっきりしたものを作り上げていきたい旨の説明がありました。



三)「就職支援と学生の就職状況」について。平成二十五年年度から二十八年度までの青森県を含む他都道府県の就職状況について就職支援室長葛西敦子先生から説明がありました。二十八年度の青森県教員採用試験では十三名が合格し、十三名が臨時採用されたが採用数は年々厳しくなっているとのことでした。四)「その他」については特にありませんでした。

同窓会からは「教育実習生に対する各校の評価は」と「その結果を基に学生個々への対応と指導は」で、学部から「三年次附属における教育実習について八つの評価項目を設定し一の評価が一つである旨の回答がありました。

平成28年度決算

Table with 4 columns: 項目, 28年度予算, 28年度決算, 備考. Section: 収入の部 (28.4.1~29.3.31)

Table with 4 columns: 項目, 28年度予算, 28年度決算, 備考. Section: 支出の部

収入2,817,162円から支出1,621,970円を引いて残額は1,195,192円 残額1,195,192円は次年度へ繰り越します。

平成29年度予算

Table with 4 columns: 項目, 28年度予算, 29年度予算, 備考. Section: 収入の部 (29.4.1~30.3.31)

Table with 4 columns: 項目, 28年度予算, 29年度予算, 備考. Section: 支出の部

平成二十九年 弘前大学教育学部同窓会 定時総会報告

平成二十九年定時総会は六月三日(土)午後二時から弘前パークホテルにおいて三十一名の役員の出席により開催されました。相馬会長は挨拶の中で就職大学院、小学校の英語の授業導入、入学定員の減少(百七十名、平成三十一年に弘前大学創立七十周年を迎える等に触れていました。その後議案の審議に入り、平成二十九年予算案で寄付金は今後特別会計に繰り入れること(平成二十八年度に旧特別教科看護教員養成課程OB会の一戸会長からの解散により九万四千円を頂きました。)また特別会計からは今年度は繰り入れないことになりました。総会終了後同ホテルにて戸塚学部長と新しく赴任された松岡事務長をお迎えし懇親会が行われました。

- 1, 29年 3月 同窓会費納入依頼
2, 29年 4月 平成28年度会計監査、事務局会議
3, 29年 6月 平成29年度総会
4, 29年 10月 同窓会・教育学部懇談会
5, 30年 2月 会報「あすなろ39号」発行
6, 30年 3月 弘前大学卒業式・祝賀会

特別会計基金報告
1, <青森銀行定期預金関係> 4,033,044 + 857 = 4,033,901円
2, <みちのく銀行定期預金関係> 4,658,431 + 989 = 4,659,420円
3, <内 訳> みちのく銀行から40万円支出し、一般会計へ繰り入れる平成29年度は一般会計に繰り入れない。

平成28年度 庶務報告

- 1, 28年 3月 同窓会費納入依頼
2, 28年 4月 9日 平成27年度会計監査、事務局会議開催(12名出席)
3, 28年 6月 4日 平成28年度総会開催(25名出席)
4, 28年 6月27日 教育学部への支援金60万円を会長から学部長へ寄贈
5, 28年 10月10日 同窓会・教育学部懇談会、懇親会開催(16名出席)
6, 28年 10月22日 3年次保護者懇談会に会長出席、入会要請
7, 28年 11月15日 会報あすなろ38号の原稿依頼
8, 28年 12月25日 加入の学生(86名)に礼状送付
9, 29年 1月20日 新和印刷へ会報印刷を発注、校正、印刷
10, 29年 2月15日 同窓会報「あすなろ38号」発行、各支部へ発送
11, 29年 3月 2日 追加加入の学生(5名)に礼状送付
12, 29年 3月23日 弘前大学卒業式・祝賀会へ会長、事務局が出席
13, 29年 3月24日 特別教科看護教員養成課程同窓会よりご寄付を頂く

お知らせ

今年度の同窓会入会者について
教育学部同窓会には十数年前から入学定員の減少とそれに伴う入会者の減少が大きな問題となっており、多くの学生に入会してもらったための方法を考えるがテーマになっております。今年度、十二月までの同窓会入会者は次のようになります。
学校教育教員養成課程は一年生から三年生、卒業生が六十六名、課程が廃止になり入学生がない生涯教育課程は三年生が五名、養護教諭養成課程は一年生から三年生の計八十一名でした。入学者が百七十名の中で八十一名の入会者は四十八%ですが一年生に限ると三十八%です。ちなみに平成28年度は四十一%、平成27年度は四十八%でした。会員獲得に会員の皆さんのご協力をお願いします。

平成二十九年 役員

- 1, 支部長 弘前・中郡支部 松田千代治(弘前市)
2, 黒石・平川・南郡支部 横山 岩雄(藤崎町)
3, 五所川原・北郡支部 竹浪 誠也(鶴田町)
4, つがる・西郡支部 内山 博文(鯉ヶ沢町)
5, 青森・東郡支部 齋藤 キヨ(青森市)
6, 八戸・三戸郡支部 澤田 明久(八戸市)
7, 三沢・十和田・上北郡支部 高瀬 俊明(三沢市)
8, 三沢・十和田・上北郡支部 馬場 せつ子(三沢市)
9, 弘大教育学部支部 村上 純一(風間浦小)
10, 葛西 敦子(教育学部)
11, 評議員 弘前・中郡支部 伊藤 邦雄(弘前市)
12, 高木 隆子(弘前市)
13, 福田 せき(弘前市)
14, 日村 隆子(弘前市)
15, 佐藤 信敬(弘前市)
16, 工藤 信敬(弘前市)
17, 黒石・平川・南郡支部 花田 幸三(弘前市)
18, 山口 祐明(弘前市)
19, 工藤 祐明(弘前市)
20, 稲葉 正樹(田舎館村)
21, 佐々木 一(黒石東小)
22, 五所川原・北郡支部 成田 徹夫(五所川原市)
23, 田中 高志(五所川原市)
24, 長内 牧子(胡桃館小)
25, 工藤 清秋(鶴田中)

- 1, 支 部 長 弘前・中郡支部 松田千代治(弘前市)
2, 黒石・平川・南郡支部 横山 岩雄(藤崎町)
3, 五所川原・北郡支部 竹浪 誠也(鶴田町)
4, つがる・西郡支部 内山 博文(鯉ヶ沢町)
5, 青森・東郡支部 齋藤 キヨ(青森市)
6, 八戸・三戸郡支部 澤田 明久(八戸市)
7, 三沢・十和田・上北郡支部 高瀬 俊明(三沢市)
8, 三沢・十和田・上北郡支部 馬場 せつ子(三沢市)
9, 弘大教育学部支部 村上 純一(風間浦小)
10, 葛西 敦子(教育学部)
11, 評議員 弘前・中郡支部 伊藤 邦雄(弘前市)
12, 高木 隆子(弘前市)
13, 福田 せき(弘前市)
14, 日村 隆子(弘前市)
15, 佐藤 信敬(弘前市)
16, 工藤 信敬(弘前市)
17, 黒石・平川・南郡支部 花田 幸三(弘前市)
18, 山口 祐明(弘前市)
19, 工藤 祐明(弘前市)
20, 稲葉 正樹(田舎館村)
21, 佐々木 一(黒石東小)
22, 五所川原・北郡支部 成田 徹夫(五所川原市)
23, 田中 高志(五所川原市)
24, 長内 牧子(胡桃館小)
25, 工藤 清秋(鶴田中)

- 1, 支 部 長 弘前・中郡支部 松田千代治(弘前市)
2, 黒石・平川・南郡支部 横山 岩雄(藤崎町)
3, 五所川原・北郡支部 竹浪 誠也(鶴田町)
4, つがる・西郡支部 内山 博文(鯉ヶ沢町)
5, 青森・東郡支部 齋藤 キヨ(青森市)
6, 八戸・三戸郡支部 澤田 明久(八戸市)
7, 三沢・十和田・上北郡支部 高瀬 俊明(三沢市)
8, 三沢・十和田・上北郡支部 馬場 せつ子(三沢市)
9, 弘大教育学部支部 村上 純一(風間浦小)
10, 葛西 敦子(教育学部)
11, 評議員 弘前・中郡支部 伊藤 邦雄(弘前市)
12, 高木 隆子(弘前市)
13, 福田 せき(弘前市)
14, 日村 隆子(弘前市)
15, 佐藤 信敬(弘前市)
16, 工藤 信敬(弘前市)
17, 黒石・平川・南郡支部 花田 幸三(弘前市)
18, 山口 祐明(弘前市)
19, 工藤 祐明(弘前市)
20, 稲葉 正樹(田舎館村)
21, 佐々木 一(黒石東小)
22, 五所川原・北郡支部 成田 徹夫(五所川原市)
23, 田中 高志(五所川原市)
24, 長内 牧子(胡桃館小)
25, 工藤 清秋(鶴田中)

- 1, 支 部 長 弘前・中郡支部 松田千代治(弘前市)
2, 黒石・平川・南郡支部 横山 岩雄(藤崎町)
3, 五所川原・北郡支部 竹浪 誠也(鶴田町)
4, つがる・西郡支部 内山 博文(鯉ヶ沢町)
5, 青森・東郡支部 齋藤 キヨ(青森市)
6, 八戸・三戸郡支部 澤田 明久(八戸市)
7, 三沢・十和田・上北郡支部 高瀬 俊明(三沢市)
8, 三沢・十和田・上北郡支部 馬場 せつ子(三沢市)
9, 弘大教育学部支部 村上 純一(風間浦小)
10, 葛西 敦子(教育学部)
11, 評議員 弘前・中郡支部 伊藤 邦雄(弘前市)
12, 高木 隆子(弘前市)
13, 福田 せき(弘前市)
14, 日村 隆子(弘前市)
15, 佐藤 信敬(弘前市)
16, 工藤 信敬(弘前市)
17, 黒石・平川・南郡支部 花田 幸三(弘前市)
18, 山口 祐明(弘前市)
19, 工藤 祐明(弘前市)
20, 稲葉 正樹(田舎館村)
21, 佐々木 一(黒石東小)
22, 五所川原・北郡支部 成田 徹夫(五所川原市)
23, 田中 高志(五所川原市)
24, 長内 牧子(胡桃館小)
25, 工藤 清秋(鶴田中)